

## まえがき

この度、名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(XIX)を刊行する運びとなりました。刊行にご協力頂いた関係各位に深く感謝致します。

本報告書は、平成20年1月10-11日の両日に開催された第20回名古屋大学年代測定総合研究センターシンポジウムの内容と、本年度における年代測定に関する学内共同教育・研究の成果をまとめたものです。

本年度の前半は、タンデトロン加速器質量分析計が故障続きで、 $^{14}\text{C}$ 測定が思うように進まず、共同利用実験を十分には推進できませんでした。また、11月から古川記念館の耐震工事が始まり、年代測定総合研究センターの共同利用がほぼ完全に停止しました。わずかに、第1実験室における試料調製が可能な状態です。このような状況にもかかわらず、第20回目にあたるシンポジウムは、特別講演4件、一般講演20件と例年同様、密度の高い内容でした。また、本業績報告書も、多岐に亘る分野から充実した研究成果を寄稿して頂きました。これらの内容は、いずれきちんとした学術雑誌に掲載されるものと期待します。

さて、国立大学の法人化後4年間の経過し、それぞれの部局において多方面に亘る成果・実績が求められております。当センターに所属する研究者自身の研究成果は勿論のこと、学内共同利用教育研究センターとしての成果・実績も求められます。最新の業績として、当センターのホームページを全面改定致しました。特に、ユーザーの皆様の利用を考慮して、単純な構成で親しみやすい、しかも情報を豊富に含んだ内容を目指しております。例えば、当センターのホームページを介して、本報告書の既刊版に収められた論文の一部がpdfファイルとしてダウンロードできるようになっています。また、初めての企画ですが、当センターが現在提供している共同利用サービスに対するユーザーの満足度指標を収集するためにアンケート調査を実施し、そのアンケート結果を踏まえたうえで、シンポジウムの際に自由討論を行いました。その概要は、本報告書にまとめてあります。この討論の内容をもとに、必要な改善を図るための体制作り着手しております。その手始めとして、試料調製システムの前予約状況をウェブから確認でき、さらにウェブから予約可能なシステムを試行中です。また、 $^{14}\text{C}$ 測定共同利用の申請項目とその測定の進行状況をウェブに表示するシステムを検討中です。このような改善により、共同利用の推進、そして実績の向上が達成できれば有り難く存じます。

年代測定総合研究センターは、文部科学省21世紀COEプログラム「太陽・地球・生命圏相互作用の変動学」と「同位体が拓く未来-同位体科学の基礎から応用まで-」の2件に参画してきました。名古屋大学から新たに申請されておりますグローバルCOEプログラムについても、2件への参画を予定しています。平成12年度に発足した年代測定総合研究センターは、来る4月から9年目に入ります。今後とも、新たな年代測定法の開発研究や必要な装置の改良研究を推進し、さらに次世代の年代学研究を担う若手研究者を育成することにより、センターの存在意義を学内外に明示して行く必要があります。世界トップレベルの年代研究と年代教育を推進する年代測定総合研究センターとなるために、関係各位のなお一層のご支援・ご協力をお願い致します。

名古屋大学年代測定総合研究センター長  
中村俊夫